

KSP-POS マーケットトレンドレポート

Vol.24

発行日 2011年6月10日

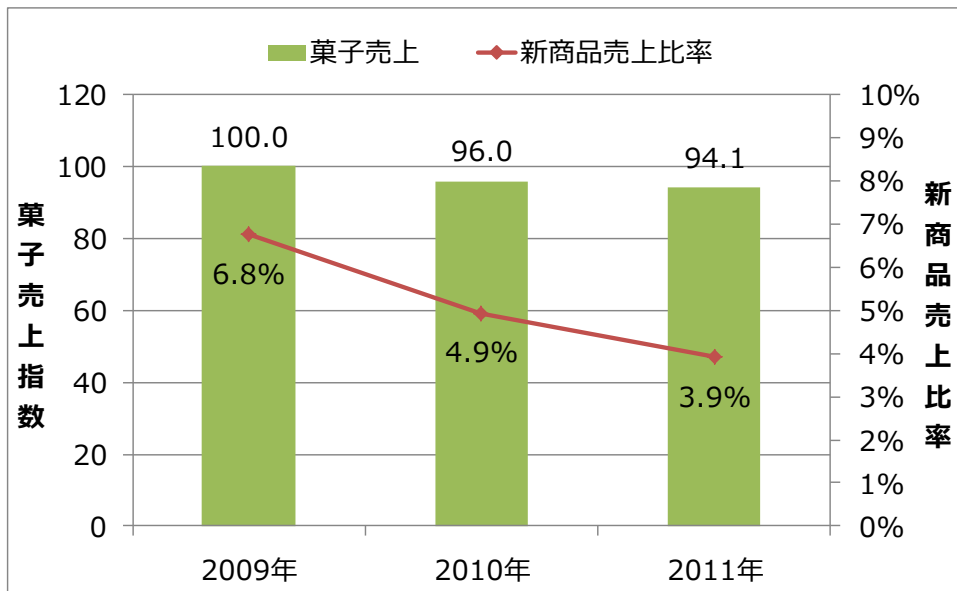
お菓子の新商品販売状況

**お菓子の新商品数は4月初旬まで減少も5月は回復
「チョコレート」は震災の影響で新商品が減少**

株式会社KSP-SPは2011年4～5月のお菓子の新商品販売状況について調査しました。

お菓子の新商品売上比率は減少傾向

常温販売の「お菓子」の売上を調査したところ、09年4～5月の売上金額を100とした指数では、10年4～5月が96.0、11年4～5月が94.1と減少していた。このうち、同時期に登場した新商品による売上比率は09年の6.8%から11年では3.9%と大幅に減少していることがわかった。



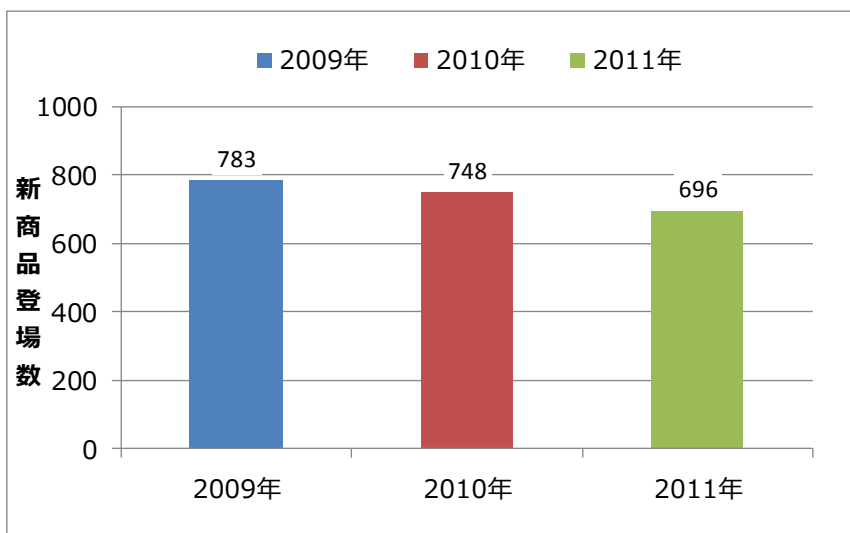
(↑グラフの期間はいずれも各年4～5月計、指数は09年を100とする)

4月初旬の新商品数は半減していたが5月は前年並み

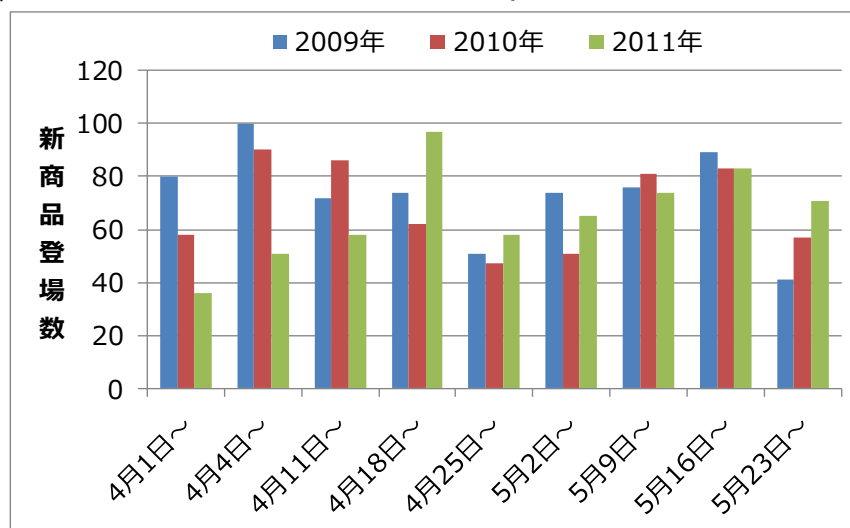
11年では売上比率が大幅に減少していた新商品だが、その登場数は09年4～5月期の783から11年同時期で696とそれほど減少していない。

週別に見ていくと、09年は4月1日から4月10日で180アイテムあったが、11年は同期間で87アイテムと約半減していた。しかし、ゴールデンウィーク前の4月18日～5月1日には09年、10年を上回る数の新商品が登場し、5月末までの期間においても新商品数の減少は見られなかった。

新商品売上比率の減少は、登場時期が2、3週間ずれ込んだためと考えられる。



(↑グラフの期間はいずれも各年4～5月計)

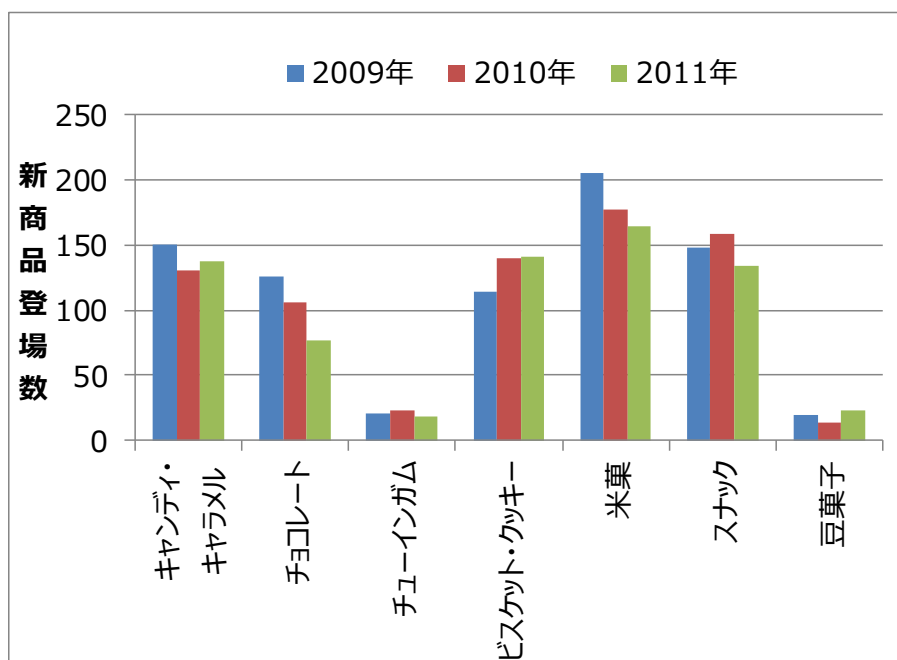


(↑テスト販売等により、正確な登場週が不明な商品は除外した)

「チョコレート」の新商品数が減少

「お菓子」カテゴリ内の細分類別の新商品登場数は「キャンディ・キャラメル」、「チューインガム」、「ビスケット・クッキー」、「豆菓子」においては09年、10年と同等の登場数であった。「米菓」、「スナック」においては若干減少した。常温のお菓子カテゴリについては、新商品投入が延期される事はあっても、数週間遅れて店頭には配荷されていたと推定される。

「チョコレート」は09年、10年に比べて11年の新商品数が大幅に少なくなっているが、震災により投入を延期した商品が気温の上昇により販売されなかったと推定される。



(↑グラフの期間はいずれも各年4～5月計)

調査概要

POSデータ：KSP-POS週次データ

期間：2009～2011年 各年4月～5月

地域：全国 150企業約740店舗

* KSP-POSは全国150社約800店舗の食品スーパーから収集した販売情報データベースです。